

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成22年6月分)

ご協力ありがとうございました。平成22年6月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 168社 回答 157社 回答率 93.5%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	30社 19.5% (2.6)	34社 22.1% (8.6)	48社 31.2% (25.8)	23社 14.9% (29.1)	19社 12.3% (33.8)	154社	33社 21.9% (23.1)	22社 14.6% (17.0)	33社 21.9% (20.4)	28社 18.5% (19.7)	35社 23.2% (19.7)	151社
売上高	29社 18.8% (3.3)	32社 20.8% (8.6)	54社 35.1% (25.0)	21社 13.6% (30.9)	18社 11.7% (32.2)	154社	34社 22.4% (25.0)	27社 17.8% (12.8)	28社 18.4% (22.3)	29社 19.1% (18.2)	34社 22.4% (21.6)	152社
在庫数量	6社 4.0% (3.4)	31社 20.7% (21.4)	75社 50.0% (51.7)	29社 19.3% (18.6)	9社 6.0% (4.8)	150社	15社 10.2% (7.8)	14社 9.5% (14.9)	49社 33.3% (28.4)	32社 21.8% (19.9)	37社 25.2% (29.1)	147社
販売単価	1社 0.7% (1.4)	37社 24.5% (33.8)	84社 55.6% (54.1)	26社 17.2% (8.1)	3社 2.0% (2.7)	151社	14社 9.6% (10.5)	35社 24.0% (22.4)	49社 33.6% (23.8)	30社 20.5% (23.1)	18社 12.3% (20.3)	146社
収益状況 (粗利)	14社 9.1% (1.3)	28社 18.2% (12.0)	69社 44.8% (36.0)	26社 16.9% (26.7)	17社 11.0% (24.0)	154社	29社 19.6% (26.9)	27社 18.2% (17.2)	41社 27.7% (23.4)	26社 17.6% (16.6)	25社 16.9% (15.9)	148社
稼働率 (生産・加工設備)	8社 6.7% (1.7)	23社 19.3% (11.0)	55社 46.2% (32.2)	18社 15.1% (27.1)	15社 12.6% (28.0)	119社	19社 16.7% (17.4)	20社 17.5% (14.8)	31社 27.2% (34.8)	22社 19.3% (20.0)	22社 19.3% (13.0)	114社
入出庫の トラック台数	8社 5.5% (1.4)	28社 19.3% (7.6)	71社 49.0% (37.2)	27社 18.6% (30.3)	11社 7.6% (23.4)	145社	15社 10.6% (11.5)	23社 16.2% (18.7)	52社 36.6% (34.5)	28社 19.7% (20.1)	24社 16.9% (15.1)	142社
現在の景況感	1社 0.7% (0.7)	7社 4.6% (2.0)	50社 32.7% (26.7)	35社 22.9% (23.3)	60社 39.2% (47.3)	153社	8社 5.6% (4.3)	22社 15.4% (16.3)	37社 25.9% (26.2)	29社 20.3% (21.3)	47社 32.9% (31.9)	143社
3ヶ月後の 景況予測	1社 0.7% (1.4)	6社 3.9% (5.4)	51社 33.6% (29.3)	41社 27.0% (23.8)	53社 34.9% (40.1)	152社						
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(6月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 実需が無い状況での値上げ交渉はまったく進まない。自動車、建機関連は堅調で、それにかかわる需要家は忙しい。建材関連については、仕事が少なく見通しがつかない。市況については、上げ止まっている。東京製鉄の影響もあるが、何より実需が無いことが一番影響しているのではないか。
- ② 4～6月のメーカー値上げは完全に決着。6月は更なる荷動きの悪化で在庫は増加に転じている。在庫単価も相当新単価に切り替わって来ている。しかし、市況は踊り場で弱含み。この閉塞感を打開するにはコイルセンターの努力では限界がある。メーカーの出荷を下回る思い切った減産が急務。
- ③ 販売量、価格との低迷水準で、長期展望との乖離が激しい。7～9月の値上げ分を粘り強く交渉しているが、腰砕けが心配。少量だが売り物も散見される。我慢のしどころか。
- ④ 4、5月は値上げがらみもあってか、想定外の好調であったが、6月に入って売上が逆戻りした。この状態がまた続きそうな気配である。
- ⑤ 仕事も少なく、市況も弱含みではあるが、高炉メーカーの値上げは更に続いている。市況動向に関係なく、値上げをしていかないと死活問題になる。
- ⑥ 売上高は4、5、6月とほぼ横這いだが、仕事のあると所とまったく無い所に色分けされている。相場はぎりぎりの所で踏ん張っているが、東鉄の発表如何では、一気にタガが外れるかもしれない。いずれにせよ、この仕事量でこの利益では、いずれ立ち行かなくなるだろう。
- ⑦ 高炉と電炉および輸入材の値差があるため、様々な単価が飛び回っている。景況は良くなってきているが、まだまだ安値で販売しなければならない先があるため、利益面ではまだ不十分である。
- ⑧ 需要減退の影響が、あらゆる業種に拡大し、事業再編、合従連衡の動きが顕著になっている。このような需給緩和状況にもかかわらず、原材料価格変動に伴い材料価格が安定せず、製品価格への転嫁がし難い情勢にある。
- ⑨ 4、5、6月と売上高は右肩下がりの傾向となっている。東鉄の値下げ、中国の減産、スクラップの低値安定、鉄鉱石・石炭のスポット価格下落と、今後の原板価格も不安定化要因が多く、注意が必要。7-9月の輸出の成約も激減していると聞く。国内相場も曇りから雨になりそうな気配となってきた。

中板

- ① 6月の販売量は前月比横這いだったが、日割りでは大幅減少となる。実需は依然として低調にて推移しており、月を追うごとに悪くなっている感がある。東京製鉄の大幅値下げが市況を押し下げており、高値のコイルが順次入荷している中、採算割れの商売となる。5月以降、荷動きは停滞感を深め、各得意先は当用買いに徹しているのが現状だ。販売減、入荷増のため在庫は増加傾向。需要の回復が期待できない中、如何に損失を抑えるかが当面の課題。いずれにせよ、厳しい商売を余儀なくされるのは確実と考える。
- ② 今年の5月、6月は今までに無いくらい悪い。公共事業が出て来ないと町場の仕事ばかりでは苦しい。

厚板

- ① 当月は橋梁、鉄骨とも各工事の山積みが集中したため、前月比大幅に増加した。ただし、来月以降も、先月までの低い山積みと比べれば水準は高くなっているものの、まだ本格的な回復基調にはなったわけではなく、とくに橋梁に関しては、今年度の入札は来月以降となり、鋼材発注に結びつくのは年末から年度末になる見込み。一方、厚板は輸出を中心として更に需給が逼迫し、先物の物件の納期が入り難しくなっており、加えて厚板の値上げと需要家の値下げの要望に挟まれ、厳しい経営を余儀なくされている状況である。

—舟爰开形鋼

- ① 東鉄の7月積み値下げ発表に呼応するかの如く、6月第3週からの販売不振には冷や水を浴びせられた。結果、5月より営業日が3日多いのに売上、粗利とも10%強の落ち込みで、この1年間で最悪の月間成績であった。この状況の短期間での終息を祈りつつも、縮む内需への対応が急務と考えさせられた月であった。

II开形鋼

- ① 需要が落ち込んでいる中、電炉メーカーの値下げで市況も下落している。荷動きも悪く、市中在庫も増加しているのが流通として申込みを最低限にして我慢するしかないか。
- ② 建築需要の少なさに加え、先安感による買いの少なさにより、引合いは激減している。この状況は5月以降続いており、しばらくは続くと思われる。したがって、売り先行になり、市況も下がって来ている。需要が回復するとは思われないので、供給側からのアクションが必要になってくる。底という空気が早く出て来るようにしなければならない。そのためには何をすべきか考えなければならない。

異形棒鋼

- ① 当用買い中心。引合いが少なく、スクラップの下げを受けて、価格も徐々に弱含んでいる。

平鋼

- ① メーカーは据え置きを発表しているが、市中は量的に低調弱含み。

鋼管

- ① 6月は売上、利益ともに前月比で良かったが、飛びぬけて良かったわけではない。動きが悪い中で値上げしていかなければならないのは困難を極める。
- ② 5月比、6月は4日稼働日数が増えたが、出荷量、売上ともに低レベルで変化無し。(SGP)
- ③ 建機、産機関連については若干の動きが見られる。建築、土木関連は底這ったままである。

構造用鋼

- ① 店売りを中心とした動きは、建機関連の復調、工作機械関連の底離れなどを受けて、回復基調となっており、今後も同基調で推移していくものと思われる。各メーカーの店売り値上げに伴い、6月より販売価格の引き上げを実施しており、市況は上伸している。
- ② メーカーがタイトとなり、枠の制限を受けている。メーカーからは値上げ、顧客からは値下げを要請されている。(SC、SCM)

その他

<曲げ加工>

- ① 秋ごろより少し景気回復する見通しがある。

<スクラップ>

- ① 過去2年間で発生量が最も少なかった。

<金属表面処理加工>

- ① 6月は紐付材、物件物とも計画通り。スポットは前月比10%ダウンだが、全体的には付加価値の高い加工が多く、売上高、販売価格とも上昇。先物件の見積り依頼も多く、7月以降も物件物が確定していることから、安定操業で推移すると予想する。コストアップ要因として、直前3ヶ月の原油高騰分が反映されて、今月よりシンナー価格が値上がり。その他材料費も値上げのアナウンスあり。